



新発田城の様子 // カイトの様子 //



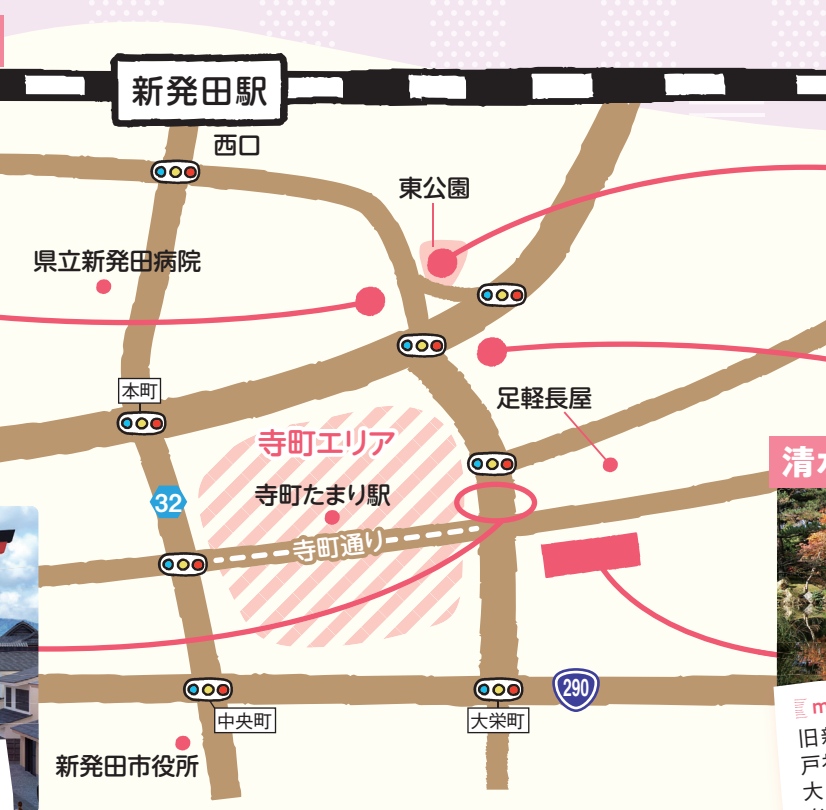
諏訪神社

memo
新発田市民の誰もが知る新発田総鎮守「おすわさま」。6/12(日)に6年に1度の「新発田御柱祭」開催!

御柱鳥居イメージ



memo
門前町開発のシンボルとして、参道に御柱の鳥居建立を計画中!



蔵春閣(ぞうしゅんかく)



memo
大倉喜八郎が明治45年に東京に建設した迎賓館。現在、東公園(旧大倉公園)に移築中。

清水園



memo
旧新発田藩の下屋敷として江戸初期に築庭された、回遊式の大庭園。四季折々の景観が楽しめる名園と言われています。

市島酒造(王紋酒造) / 五階菱(ごかいびし)



memo
創業から200年以上、酒造りを行う酒蔵。現在は(王紋酒造)に社名を変更。体感型酒造リゾート(五階菱)を併設。



ご案内します //

新発田市 観光ガイドボランティア協会
内本 隆さん
昭和24年生まれ。「来春オープン」の蔵春閣に向けて、諏訪神社・蔵春閣・清水園・寺町・五階菱の観光案内コースを計画中です。

観光ガイド問合せ

一般社団法人 新発田市観光協会
新発田市諏訪町1-2-11
イクネスしばたミント館内
☎0254-26-6789

巻頭特集

越後新発田門前町プロジェクト本格始動!

新発田の歴史と文化を再発見



新発田の駅前に誕生した 注目のスポット・五階菱

4月22日(金)、こけら落としを迎えた王紋酒造内の(五階菱)。当日は「しばた台輪」があたりを披露したり、人力車で新発田市内を巡る体験ができました。さまざまな催しも行われ、体感型酒造リゾートと銘打たれた館内には、新発田市の名産を中心に900を超える商品が並び、これまでとは異なる多様な工夫で日本酒文化に触れられる空間となっています。実はこの施設は、越後新発田門前町プロジェクトの第一弾。

「まちの開発などを名目に、後世に残すべきものがこの新発田からもなくなってしまう。そんな折、大倉喜八郎の別邸(蔵春閣)の移築が決まりました。これを機に現存の文化財を守り、活用して、まちと経済を活性化させよう」と発案したのが、越後新発田門前町プロジェクトです。プロジェクト代表理事の布村さん。実は、米どころ

後は、新発田の未来を支える小中高生に対し、啓発活動をより数多く展開し、自分たちのまちに誇りを持てる下地づくりを行いたいと考えているそうです。

**心も経済も豊かになる
そんなまちを後世に残したい**

昔の様子について「大正2年に新発田駅ができるまで、駅前には今のような道路はありませんでした」と話してくれたのは、諏訪神社・福宜の島山邦洋さん。城下町であった新発田の町は、敵から攻め入られた場合に備え、たくりになっていたそうです。そのため、昔は諏訪神社から寺町を通り、新発田城まで抜けていく道しか、大きな通りはなかったといわれています。今回のプロジェクトでつながるのはまさしくこれらの場所、それらの通り。古きよき歴史を感じるには、うってつけの場所ともいえます。

島山さんは「駅前エリアの発展により新発田市の盛り上げ、将来的には広範囲にいい影響が伝わればと考えています。中核を担う文化施設として、相互に研鑽し助け合いながら発展していきたいですね」と力強く語ってくれました。

最後に、このプロジェクトの発起人でもある、王紋酒造の代表・長谷川一豊さんにお話を伺いました。「今後は産学官が共同して、人を育て、歴史を組み立てていくような文化的な社会を作



諏訪神社 福宜 島山 邦洋さん

昭和59年生まれ。[6月12日に曳御柱祭・建御柱祭が行われます。長野県以外で御柱祭が見られるのは新発田だけです]。



一般社団法人 新発田市歴史文化プロジェクト 代表理事 布村 玲輔さん

昭和27年生まれ。「新発田で歯科を開業して42年。新発田の町が好きです。10年後の活気ある新発田を目指したいと思います。」

として日本有数の豊かなまちであった新発田には、そもそも多くの文化財が存在していたのだとか。しかし、13年前は3300軒あった東京の有形文化財が現在300軒に減ってしまったのと同じように、新発田のまちからも多くの歴史遺産がなくなってしまうそうです。

新発田歴史文化プロジェクトは、三社四名で組織された団体です。新発田の象徴として昔からこのまちを見守ってきた(清水園)王紋酒造(旧市島酒造)(諏訪神社)。それらに、元歯科医師会会長として広い人脈を持つ布村さんが加入。布村さんは、自身の医院前に信号機を寄付する市民活動も行っており、同プロジェクトの旗振り役を担っています。「来春オープン予定の蔵春閣に諏訪神社、王紋酒造、清水

りたい」と話す長谷川さん。幼い頃の新発田は、黒塚と松の木に囲まれた、木漏れ日を感じる風情あるまちだったそう。「春ともなれば、今よりもっと桜が多かった加治川にたくさん露天商が並び、実にぎわっていました。日本でも例を見ない形のプロジェクトを通して、新発田というまちを昔のように経済的にも精神的にも豊かなまちにしたいというのが、本プロジェクトの根底にあります」。

新発田というまち、文化を後世に残し、世界に誇れるまちづくりをしようという想いでスタートしたプロジェクトはまだ始まったばかり。今後は、蔵春閣がオープンし、かつてあった大鳥居の復活、門前町だけにとどまらない他エリアへのアプローチも予定しているそうです。歴史と文化の町・新発田は今後より加速していきます。今度のお休みは、そんな新発田の今昔を感じつつ、歴史散策はいかがでしょう。



▲五階菱で行われた、越後新発田門前町プロジェクト始動式

園、寺町。この5つの観光資源を結び町並みを伝統的な建築様式、雁木や漆喰壁などをつなぎ、歴史文化が香る街道として整備したいと考えています。そのキーワードとなるのが、大倉喜八郎。5カ所すべてに関わりのある、新発田の誇る大実業家です」。

新発田の誇る大実業家 大倉喜八郎を中心とした試み

「現在、蔵春閣が移築中の場所もとも公園でした。昭和18年までは高さ11メートルほどの大倉喜八郎像があったんです」と話すのは、同プロジェクトの「員」でもある、新発田市観光ガイドボランティア協会の内本隆さん。長年、大倉喜八郎に関する研究を重ねてきました。

旧新発田町出身の大倉喜八郎は、渋沢栄一とともに、鹿鳴館や帝国ホテル、帝国劇場などを設立。内本さんは「建物を残しただけでなく、諏訪神社に石造の鳥居を奉納したり、新発田の町や神社に多くの寄付をしていたことから、新発田への愛情をうかがい知ることができます。今回のプロジェクトを機に、新発田市というまちを多角的に考えるようになってもらえたらいいです」と語ります。

これまでに、市内の高校へ赴き、大倉喜八郎および新発田のまちに関する講演を行ってきたという内本さん。今、

実業家 大倉喜八郎ってどんな人?

- 1837年 現在の発田市に生まれる
- 1854年 17歳で江戸に出る
その後、商人として成功。大成建設、サッポロビール、帝国ホテル、東京経済大学などを設立。
- 1916年 旧新発田町に諏訪公園(別称大倉公園)を造成・寄贈
- 1918年 大倉製糸新発田工場 設立



提供 / 大倉文化財団

問合せ先

一般社団法人
新発田歴史文化プロジェクト
新発田市本町1-7-5
☎0254-24-8534